PLATE 2

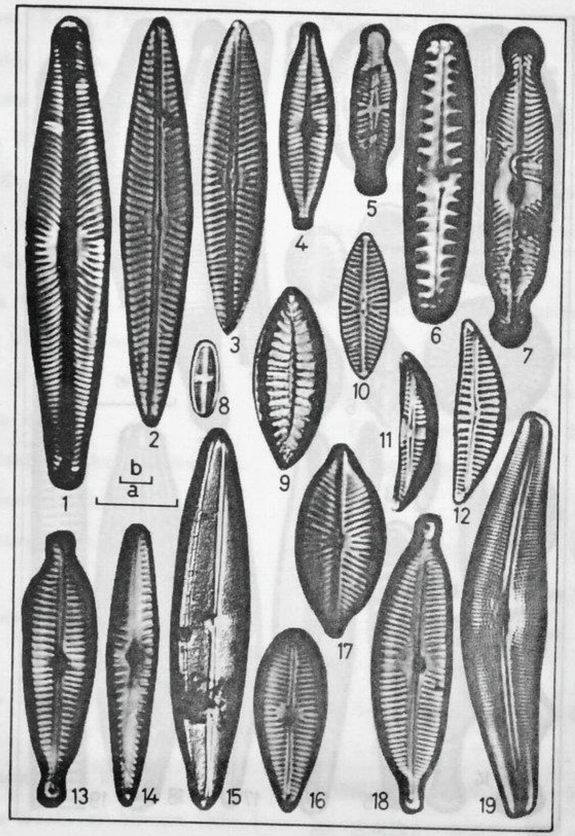

Plate 2　（9, 15, 19は b, 他は a スケール）

1. Navicula viridula
2, 3. N. oppugnata
4. N. cryptocephala
5. N. protracta
6. Pinnularia borealis
7. P. biceps
8. Navicula minima
9. Surirella biseriata var. bifrons
10. Navicula radiosa var. tenella
11. Amphora ovalis var. pediculus
12. Cymbella turgida
13. Gomphonema sp.
14. G. clevei
15. Neidium iridis var. ampliata
16. Gomphonema olvaceum var. quadripunctatum
17. Navicula clementioides
18. Cymbella naviculiformis
19. C. aspera

（スケールは10μ）

富山県産シダ植物雑記

富山高等学校　大島哲夫

富山県産のシダ植物について，地域的な分布に関する数種の報告が行われているほか，小路登一氏①によって，県内産のシダ植物がまとめられ，その中において，今後の分布調査の指針が与えられている。その報告をもとに，主としてこの1年間に確認できた種（変種，品種），分布について報告する。なお，小路氏によって本年報告のあったもの（本会研究発表で）は消略した。

1．ミドリヒメワラビ　Thelypteris viridifrons Tagawa

文献①中では，石川，新潟両県に生育し，本県にその分布の可能性が示されていたが，1976年上市町大岩での採集品を，国立科学博物館　中池敏之氏の同定をえて確認した。その後，注意していると，かなり分布していることがわかった。ヒメワラビによく似ているので見落されていたものであろう。ヒメワラビとの相似点は，葉身が鮮緑色で，小羽片の柄が明らかに存在し，林下に生育する。（ヒメワラビは小羽片が無柄，葉身は黄緑色で日当りにみられる。）

採集地　上市町大岩（1976）　小杉町平野（1976）　高岡市須田（1977）
高岡市石堤（1977）　魚津市湯上（1977）

2．タカオシケチシダ　Cornopteris decurrenti-alata var. pilosella H. Ito

シケチシダときわめて似ており，葉の裏面に毛があり，中軸や羽軸，葉脈上に特に多く，生態・分布はシケチシダと同じである。砺波市の千光寺で採集し，東京大学　倉田悟教授の同定をえた。（同行者　杉田久志氏）。本県ではシケチシダの分布は多いが，本変種の分布は少ない。

採集地　砺波市芹谷　千光寺（1976）　氷見市中田，谷口（1977）

3．エゾフユノハナワラビ　Botrychium robustum Und.

文献①には，フユノハナワラビの記載がみられるが，本種の記載はみられない。上市町大岩での採集品を，倉田教授に同定いただいたところ，エゾフユノハナワラビとの結果を得た。筆者のもつ県内産標本を調べてみたところ，すべて本種と判断される。県内産のものについて調べ直す必要があるように思われる。

採集地　上市町大岩（1963）　立山町栃津（1973）　大沢野町寺家（1975）

4．ムサシシケシダ　Lunathyrium japonicum var. musasiense H. Ohba (1966)

シケシダの変種として発表されたものであるが，セイタカシケシダ L. dimorphophyllum Kurata とシケシダ L. japonicum Kurata の雑種と推定されている。芹沢俊介氏④によると，セイタカシケシダに比べて鱗片や多細胞毛が少なく，上方の羽片は狭い角度でつき，シケシダに比べ，葉は大形で幅広く，羽片も幅広くてやゝ広い角度でつく。石川，新潟両県で記録されてい

たが，本県でははじめての記録である。(倉田教授の同定を得た。)採集地には，シケシダ，セイタカシケシダの生育もみられる。　採集地　　高岡市手洗野（1977）

なお，本県におけるセイタカシケシダの記録も少ない。本採集地のほか，上市町大岩（文献①），山田村湯(1977)で採集されている。

ムサシシケシダ

5．オニカナワラビ　Arachniodes simplicior var. major (Tagawa) Ohwi

本県が分布の北限とみられ，氷見市中波が県内唯一の生育地とされていたが，新に次の地点で生育を確認した。いずれも生育量は少ない。

大沢野町神通川第一ダム下流（1977）　　氷見市仏生寺（1977）および磯辺町（1977）

6．ヒロハノイヌワラビ　Athyrium wardii (Hook.) Makino

文献①では，生育地の確認が必要とされているが，次の地点で確認している。なお，文献②によると，本県が分布北限となっており，本県における分布はあまり多くないように思える。

上市町大岩（1960，1976）　　朝日町宮崎（1963）　大沢野町神通川第一ダム下流（1977）

7．カラクサシダ　Pleurosoriopsis Makinoi (Maxim. ex Makino) Fomin

全国に分布しているが，分布量は少なく，岩上，樹幹上の湿ったコケに混って着くので見つけにくい。上市町大岩，立山町岩室の滝の生育がよく知られており，また，井口村での記録があったと聞くが，次の生育地が見つかった。

利賀村庄川支流の十八谷（1977，同行者　杉田久志氏）

滑川市蓑輪（1976，島川淳氏の連絡による）

8．タニイヌワラビ　Athyrium otophorum (Miq.) Koidz.

文献②によると，本県が分布北限とされ，本県における生育地の記録も少なく，白岩川流域の報告を知るだけであったが，次の地点で確認した。県内各地に分布していることが予想される。

小杉町平野（1976）　　小矢部市高坂（1977）　　氷見市戸津宮（1977）

大山町荒屋敷（1977，三吉利之氏の採集標本による）

9．コシノサトメシダ　Athyrium pinetorum var. koshiense Kurata

文献①には，タカネサトメシダ A. pinetorum Tagawa（立山町五色ヶ原，1958，伊藤洋氏同定），コシノサトメシダ（立山，美松坂，1973，倉田悟氏同定）と記載されているが，前者（タカネサトメシダ）の標本を調べてみると，後者と同じとみられる。前者はコシノサトメシダの認識

がなかったころの同定であり，前文献①からタカネサトメシダを削除すべきと思う。また，コシノサトメシダは立山一の谷付近でも確認しており，立山一帯の針葉樹林帯の樹陰に広く分布しているとみられる。倉田教授⑤によるコシノサトメシダの特徴を記しておく。

「タカネサトメシダの裏日本型で，タカネサトメシダの典型品では，基部1,2対の羽片を除くと，下向き第1小羽片が上向き小羽片より先に羽軸が発出し，しかも，葉軸にごく接近してつくので，羽片がほゞ無柄にみえるのに対し，本変種では，下向き第1小羽片が葉軸から離れてつき，上向き小羽片とほゞ対生して生ずるので，羽片にかなり明らかな柄がある。岩手県早池峯山，秋田県鳥海山から福井県の三の峯，取立山に達する諸高山にやゝ普通に産する。」

コシノサトメシダ

10．アオハリガネワラビ　Thelypteris japonica form. viridescens (Makino) H. Ito

ハリガネワラビの品種とされ，葉柄は基部を除いて緑色であり，イワハリガネワラビ T. japonica var. glabrata Ching は葉柄は同色であるが苞膜に毛がほとんどない点で区別されている。小杉町平野（1976）での採集品を同行の杉田久志氏によって倉田教授の同定を得た。また，本年，氷見市において採集した。さらに，滑川市大浦付近で島川淳氏によって採集されている（1976)。しかし，中池敏之氏によると，本品種については，ハリガネワラビとの関係において問題を残しているようである。

標本の同定をいただいた倉田悟，中池敏之の両氏，貴重な情報提供をいただいた三吉利之，島川淳，杉田久志の各氏に感謝します。

文　献

① 小路登一：富山県のシダ植物（富山県高教研生物部会，フィールド研究会報第2号，1976）
② 行方・倉田：日本産シダ植物総目録（1961）
③ 中池敏之：シダ雑種の索引（1970）
④ 芹沢俊介：日本・琉球・台湾のシケシダ類（東京都高尾自然博物館研究報告第5号，1973）
⑤ Nakaike：Enumeratio Pteridophytarum Japonicarum：Filicales（1975）
⑥ 倉田　悟：25の新羊歯(1)（日本シダの会々報 Vol. 2，No. 27，28，1976）